

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC Design Award 2013

ー東京・名古屋・大阪で、デザイナー向け説明会を開催中ー

PVC Design Award 事務局

■随想

◇「農ビリサイクルと私」 ー第三章：揺籃期ー

株式会社黒田工業 黒田 實

■編集後記

■トピックス

◇PVC Design Award 2013

ー東京・名古屋・大阪で、デザイナー向け説明会を開催中ー

PVC Design Award 事務局

3回目を迎える「PVC Design Award 2013」のデザイン提案の募集が5月7日にスタートしました。テーマは「ソフトPVCで日本の力をためす」。

これまでの取り組みから一步前に出て、デザイナーの方々にソフトPVCの素材とその加工方法、製品としての特徴などをご理解頂き、PVC製品に新たな価値を生み出すデザイン提案を求めています。そのため、東京・名古屋・大阪の各地で、デザイナー向けの説明会を開催します。

後援頂いている（公社）日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）の山口事務局長様のご助言も頂き、JIDA会員の方々を中心に、各地で説明会を計画しています。既に、東京では、4月25日に同協会スタンダード委員会セミナー部会の第69回勉強会で、「ソフトPVC～素材と加工からデザイン提案応募の取り組み～」のテーマで説明会を開催させて頂きました。説明会のプログラムは、2部に分けて、下記の内容で行いました。



東京での説明会の様子

第1部：素材とその加工について

- ・PVC 素材の特徴
(他の汎用プラスチックとの比較)
- ・ソフトPVC とは何か
- ・その加工方法と製品の特徴

第2部：PVC デザインアワードについて

- ・ PVC デザインアワード創設の経緯
- ・ PVC Design Award 2013 実施内容
- ・ デザインに期待する視点
- ・ 質疑応答

当日は約20名の方々が参加され、主催者側の講師は東日本プラスチック製品加工協同組合の定岡デザイン研究所 定岡様と事務局の一色が担当しました。開催場所は六本木A X I SビルのJ I D Aギャラリーで、デザイナーの方々が集まりやすい時間帯を選び、午後7時から9時までの予定で進めました。当日、これまでに入賞された作品やソフトPVCの素材も展示し、定岡様からは代表的な加工方法である高周波溶着による空気モノの試作品の作り方が動画を用いて説明されました。質疑応答では、ソフトPVCの環境問題から実用物性まで、幅広い視点での専門的な質問もあり、日頃感じておられるデザイナーの方々の関心事が理解出来ました。特に、入賞デザインへのビジネス支援では、主催団体会社約300社のバックボーンがあり、日本のモノづくり技術とサプライチェーンの強みをもっと強調した方が、応募頂くデザイナーの方々に興味を持って頂けるとのアドバイスがあり、実りの多い説明会になりました。



ソフトPVC製品



実際に製品をご覧いただきました

引き続き、東京では、一般のデザイナーの方々を対象に、5月16日（木）午後6時～8時、台東区浅草橋の東プラ健保会館で、同じ内容の説明会を開催します。講師には、ソフトPVCの製品を扱っておられる(株)三洋の海渡社長にお出で頂きます。同氏には、これまでの経験豊かな知見とビジネスをリードしておられる立場から、このPVCデザインアワードのアドバイザーの役をお願いしています。

名古屋では、(株)国際デザインセンターの黒田事業部長様にご相談させて頂き、同センターの共催でセミナーを開催することになりました。5月31日（金）午後6時～8時、中区栄の国際デザインセンターで、一般のデザイナーの参加者募集を行っています。ここでも、名古屋地区のソフトPVCに携わっている組合の方を講師に招き、素材から加工、その特徴まで丁寧に説明させて頂きます。

大阪では、J I D A関西スタンダード委員会の大浦委員長様のご協力を得て、5月28日（火）午後6時半～8時半、グランフロント大阪北館7Fナレッジサロンプロジェクトルームで開催されます。また、学生向けとして、PVC維新の会と産学共同の取り組みを行っている上田学園で5月25日（土）に説明会を開催します。

是非、デザイナーの皆さんに各地での説明会に参加頂き、ソフトPVCの素材に触れて、デザイン提案に応募頂きたいと関係者一堂願っています。残念ながら、参加出来ない方々のために、デザインアワードのHPに問合せの窓口を開設しましたので、気軽にアクセス頂ければ、モノづくりの専門家が丁寧に対応させて頂きます。

[PVC Design Award 2013 専用サイト（問合せ窓口）](#)

■ 随想

◇「農ビリサイクルと私」 —第三章：揺籃期—

株式会社黒田工業 黒田 實

良き理解者として付き逢わして頂いた朋来鉄工所（現在のホーライ）の初代社長の鈴木さんらと共に、多くの検討を重ね廃農ビの洗浄装置を改良していった。当時は女性が美顔のために水を溜めたボール状の器に超音波を流し、そこに顔を入れ毛穴の汚れを取るといふ装置が流行った時期だった。私は、その超音波洗浄法も廃農ビの洗浄に取り入れてみた。工場がある敷地内に丸い大きな池のような穴を掘り、そこに超音波を流し、廃農ビを入れ、洗浄を試みた。

確かに超音波を用いると廃農ビフィルムは綺麗になったが、その綺麗になったフィルムをその池から出そうとすると、超音波を流しているのでフィルム表面に静電気が起き、せつかく取れた汚れがそのままフィルムにくっついて出てくるので実用的ではなかった。

当時、漸く、廃農ビフィルムの破碎が多くの試行錯誤の結果、例えば、回転数の最適化など、可能に成りつつあったのだが、未だ洗浄したフラフ（フィルムを破碎したものの呼び名）から水を取るための、今という脱水機が未完成だった。最初の試作機は横式脱水機で、羽の回転方向と重力方向が垂直なため、そこへフラフを投入するとどうしても詰まってしまうし、汚れも取れない。打開策はないかと、いろいろと考えながら自宅に帰り、洗濯機（当時は2層式が主流）を妻が回しているのを見て、「そう



農業用塩ビフィルム

だ！洗濯機の要領で縦で洗い、縦のまま脱水すれば問題点は解消できる筈だ」と思い付き、急いで縦式脱水機の試作機を作り、洗浄・脱水して試したところ、フラフの大きさが適切ではなく効率の問題は残っていたが、汚れも落ち、詰まることなく脱水もできた。

この縦式洗浄・脱水方式は、今では当たり前の様に用いられているが、当時としては画期的な方式であり、試行錯誤の連続から生まれた方式であった。実際に廃農ビフィルムを破碎機に通し、水槽（当時はタンクを作って入ってきたフラフを次に送るために人がスコップを使って流していた）を通した後、その脱水機で処理すると綺麗なものが出てきた。

その後も更なる改良に邁進し、例えば、より汚れを落とし、フラフの純度を上げるために、美顔機での経験から、超音波ではなくエアレーションによる汚れ落としを試みた。破碎されたフラフ中に折れ目が発生し、その折れ目に汚れが溜まり、洗浄が十分ではないという問題が出ていた。それを解決する為に、水槽の下に塩ビ製硬質パイプを敷き、そのパイプの何ヶ所かに穴を開けエアを送り、泡が出ている所にフラフを流した。すると、エアレーション効果でその折れたフラフが、花が咲いたように開き、汚れを落とすことができた。

（つづく）

次回は、「第四章：確立期」です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

先日電車の先頭に乗って進行方向の外を眺めていました。

ワンマン運転の地下鉄に乗るのですが、驚くことができました。

まず運転手さんが座っていますがまったく手を動かしている気配がない。

(全て自動運転?!)

速度計の隣にある情報パネルに釘付け。各車両毎の気温・湿度・乗車率が表示されています。(すごい!!)

就職したての頃の地下鉄は、何故かいつも同じところで車内の照明が全て消えて突然真っ暗になってしまって、非常灯みたいなランプが数秒つきました。なんだか不安を持ったあの時代とはぜんぜん違う気がしました。(リマル)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp